

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 賀茂別雷神社（上賀茂神社）からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・上賀茂神社北側は丸山及び本山の森林帯が背景となっており、さらにその背後には御神体山の神山がそびえている。
- ・東側と西側は住宅地となっている。
- ・南側は神社正面として鳥居及び茶店等があり、参拝者向けの玄関口となっている。



1-1 五橋から楼門への眺望
：周辺の建築物は見えない。



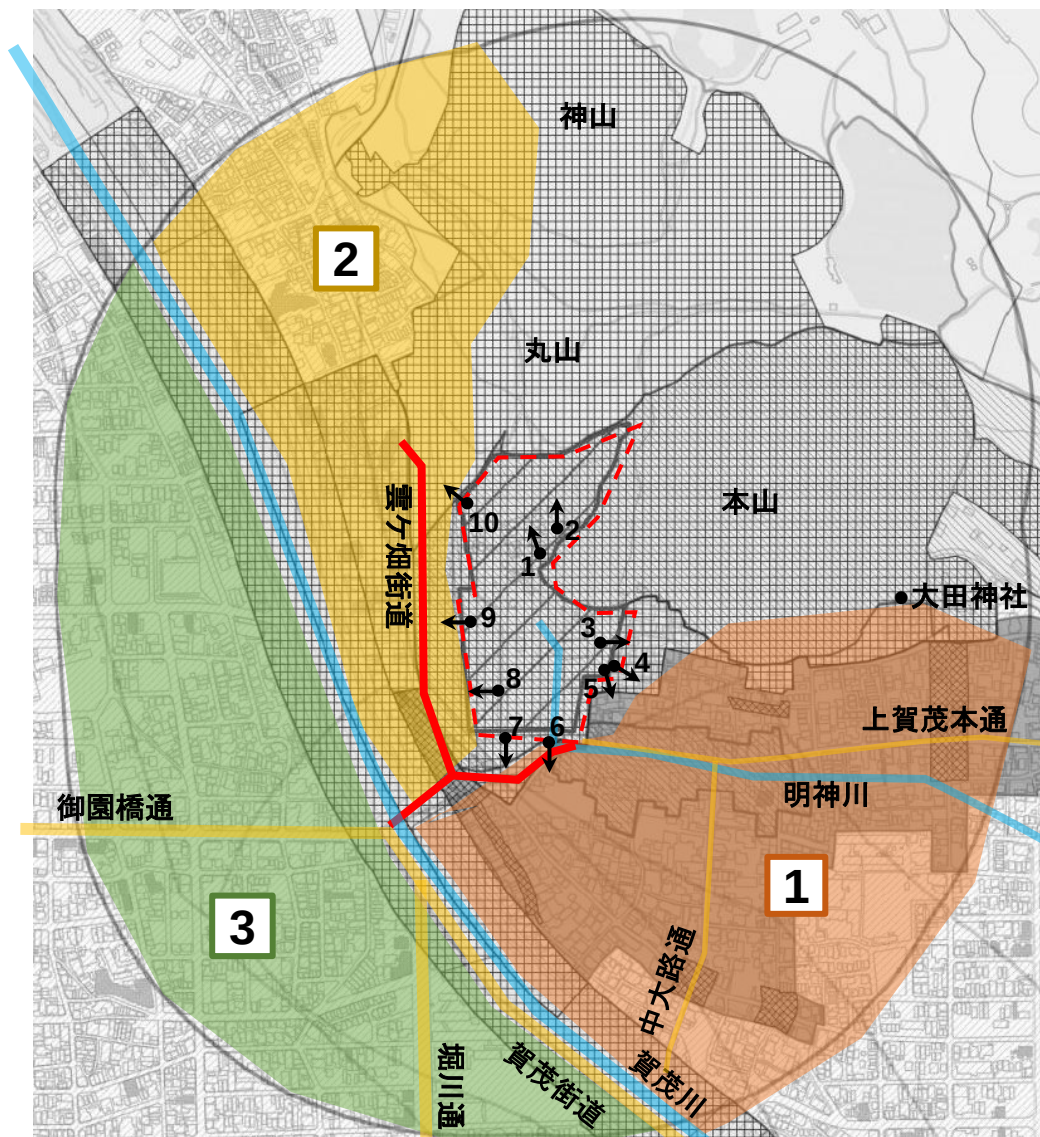
1-2 新宮門前から北への眺望
：周辺の建築物は見えない。



1-3 庁屋北側から東への眺望
：樹木の奥に低層住宅が見える。



1-4 庁屋南側から南東への眺望
：駐車場の向こうに低層住宅が見える。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



1-5 庁屋から南への眺望
：駐車場の向こうに低層住宅が見える。



1-6 視点場南端から南への眺望
：上賀茂本通をはさんで社家が見える。



1-7 一の鳥居から南への眺望
：鳥居前の茶店などが見える。



1-8 参道から西への眺望
：樹木の隙間から賀茂川沿いのマンションが見える。



1-9 社務所前から西への眺望
：樹木の隙間から賀茂川沿いのマンションが見える。



1-10 本殿西側から西への眺望
：雲ヶ畑街道沿いの住宅、中層マンションが見える。

■ 2 賀茂別雷神社（上賀茂神社）周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・上賀茂神社周囲からは樹木などで上賀茂神社の建築物等の視認は難しい。
- ・参拝者の玄関口となる南側は、一の鳥居など地域を特徴づける景観がある。
- ・重要伝統的建造物群保存地区では、明神川の流れと社家の町並みが続いており、この地域を特徴付ける景観となっている。
- ・重要伝統的建造物群保存地区の周囲一帯は上賀茂郷界わい景観整備地区に指定されており、社家や農家、町家が混在し、歴史的な町並みを形成している。



2-1 柵野の別れ北から南西への眺望
：沿道に畑が残っている。



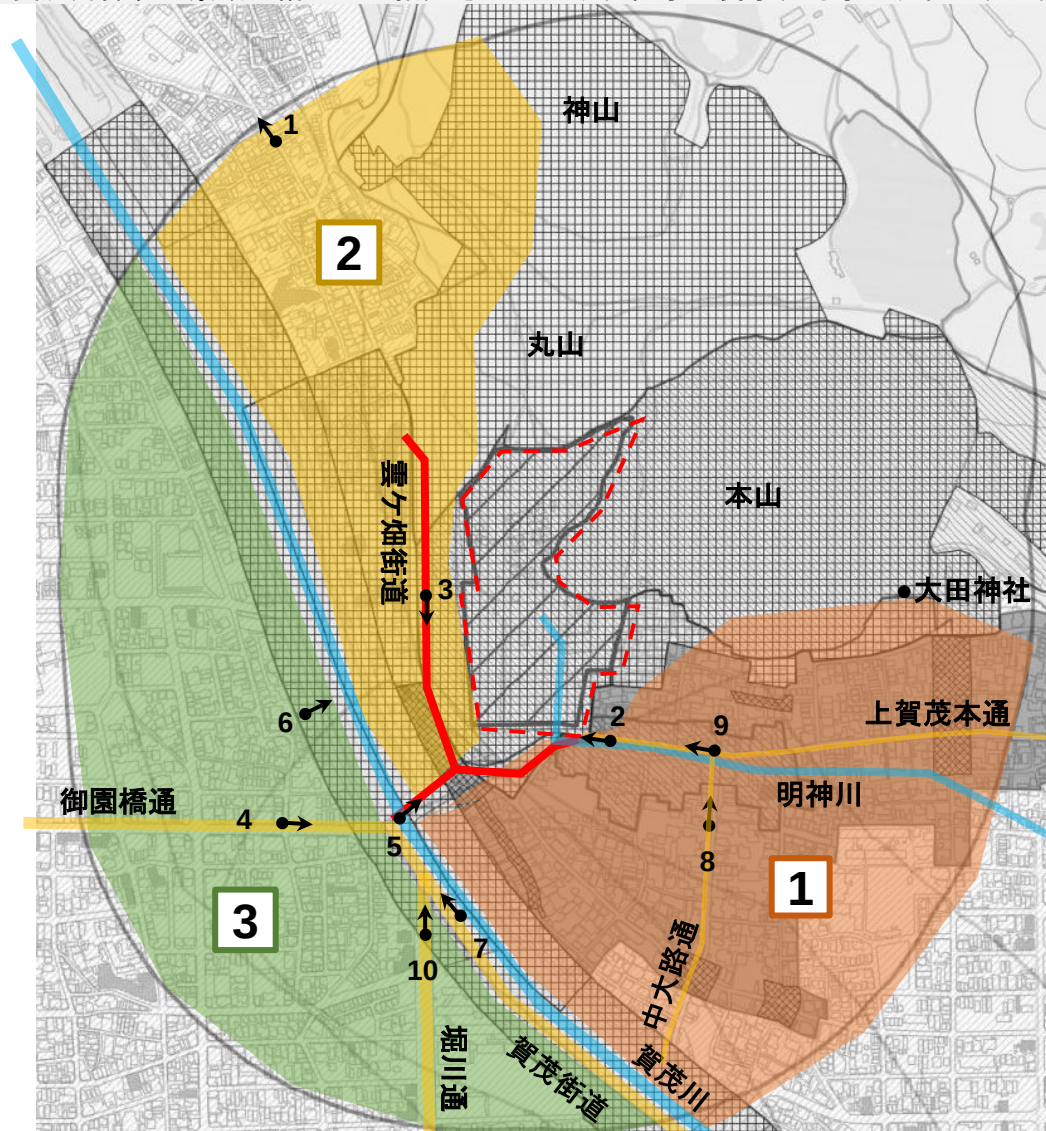
2-2 上賀茂本通から一の鳥居への眺望
：明神川と社家の歴史的な町並みが残る。



2-3 神社西側の雲ヶ畑街道
：上賀茂神社の石垣及び植樹帯が並ぶ。



2-4 御園橋商店街から東への眺望
：商店が立ち並ぶ。
奥に東山が見える。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



2-5 御園橋西詰から東への眺望
：本山を背景に低層住宅等が立ち並ぶ。



2-6 賀茂川右岸から東への眺望
：本山を背景に賀茂川沿いの
中低層建築物が見える。



2-7 賀茂街道から北への眺望
：手前にお土居跡が見える。



2-8 中大路から北への眺望
：通りの両側に土塀が並び、
奥には本山が見える。



2-9 上賀茂本通から西への眺望
：和風住宅の塀が続いている。

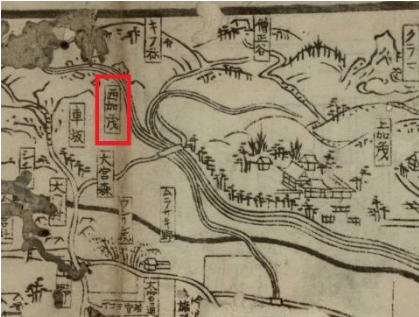
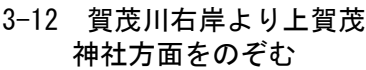


2-10 堀川通から北への眺望
：マンション等が立ち並び、
お土居跡も残る。

1 上賀茂神社南東側				参考写真等	
ア エリアの歴史等	・旧上賀茂村にあたる。寛仁元年(1017)に当地が上賀茂神社所領として寄進され、中世は社司、氏人などから構成された自治組織の惣中を組織し、神社から給田を受けて祭礼時の神事や社役を務めた。江戸期には社領2500石余りの社領を背負った神官達が社前に住居を構えたのが社家町である。 ・江戸後期作といわれる「愛宕郡上賀茂村絵図(歴彩館所蔵)」の集落街路は、現在も踏襲されている。昭和37年撮影の「近藤豊撮影写真資料(歴彩館蔵)」からは現在も変わらぬ景観を保っていることがわかる。				
				3-1 「愛宕郡上賀茂村絵図」	
イ 町並みの特徴	・明神川は上賀茂神社境内では「ならの小川」と呼ばれる禊のための聖なる川であり、境内を出て明神川となるが、その流れは社家の庭に引き込まれ、神官の清めの水としても使われた。この明神川に沿うように社家の町並みが形成されている。明神川が存在が、社家の町並み景観に重層性を持たせている。 ・この明神川に沿った町並みが重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、建造物のうち土橋、石橋、土塀もその価値に含まれている。 ・上賀茂郷界わい景観整備地区は重要伝統的建造物群保存地区を取り囲むように指定されており、社家や農家、町家が混在し、土塀も連続して残るところがあり、境外摂社である太田神社まで続いている。				
	文化財等： 青木家住宅(旧本尊美家住宅)主屋および表門、大田ノ沢のカキツバタ群落(天然記念物)、深泥池生物群集(天然記念物)			3-2 「近藤豊撮影写真資料」	
ウ 景観形成方針	上賀茂地区伝統的建造物群保存地区	上賀茂郷界わい景観整備地区	上賀茂神社周辺特別修景地域		
	明神川にかかる土橋、土塀、社家の門、妻入りの社家土塀越しの庭の緑などが一体となって社家町の貴重な歴史的風致を形成している。	豊かな自然環境を背景に、社家や農家、町家が織りなす界わい景観を保全する。	上賀茂神社周辺は、世界遺産である上賀茂神社境内の緑と一体をなす趣のある景観を保全する。	3-3 3-2の現在の町並み	
エ 建築計画等に求める配慮事項	優れた社家町の町並みをそのまま修理あるいは修景することにより、伝統的建造物群の特性を保存し、良好な近郊住宅の環境の保全を図る。	地域の景観特性を維持・向上するとともに、隣接する伝統的建造物群保存地区と調和する景観とする。	上賀茂神社周辺では、敷地規模の維持と十分な敷地内の緑化を図り、建築物は原則として日本瓦ぶき和風外観とする。		
				3-4 中大路通沿いの土塀が続く町並み	

2 上賀茂神社北西側		参考写真等
ア エリアの歴史等	・南は上賀茂神社西側にあたり明治以降に発展した街区、北は「柊野(ひらぎの)」と呼ばれる地域で周囲一面に柊が生え繁っていたことに由来している。柊野地域は主に、旧鞍馬街道に近い上ノ段、雲ヶ畑街道に近い下ノ段、それらの中間域中ノ段、両街道が分岐する上賀茂朝露ヶ原町・葵之森町の両町域別れの4つに区分される。 ・太閤検地により広大な荘園が没収され、朱印地としてわずかの境内地だけが残された。17世紀中期に寺社奉行の認可の下で柊原新田が開拓され、上賀茂村の枝郷として成立。「元禄十四年実測大絵図」と「洛中洛外絵図」など、この時期に描かれた地図には柊野村との地名にあわせて村落の存在が見てとれる。	
イ 町並みの特徴	・上賀茂神社と賀茂川に挟まれた南北に長いエリアである。賀茂川左岸の本山、丸山という神聖な山を背景とし、賀茂川の開放的な景観が特徴的なエリアでもある。 ・低層住宅に加え、中層マンションが、神社に接近した場所に存在する。 ・上賀茂神社西側は低い石垣と生垣、樹木によって区画されており、神社と自然との関係をうかがわせる景観となっている。 ・上賀茂神社の北側は柊野と呼ばれる地域である。元は上賀茂神社の所領で、近代まで農地であった。これが高度経済成長期から徐々に開発が進み、住宅地が増えるが、その傾向は近年まで続いている。 ・現在でも田畑が多く残っており、賀茂なす、すぐきといった賀茂野菜の産地となっている。 文化財等：柊野のチリツバキ(天然記念物)	
ウ 景観形成方針	上賀茂神社周辺特別修景地域 上賀茂神社周辺は、世界遺産である上賀茂神社境内の緑と一体をなす趣のある景観を保全する。	風致地区 上賀茂及び神山地域は、神宮寺山や本山の山景及び緑の保全、高台の住宅と背後の緑との調和、本山西麓の自然景観の保全に配慮する。
エ 建築計画等に求める配慮事項	敷地規模の維持と十分な敷地内の緑化を図り、建築物は原則として日本瓦ぶき和風外観とする。特に、賀茂川左岸では、緑豊かな河川景観を保全するため、道路に面する部分に植栽、生垣又は和風塀を設け、建築物は和風外観とする。 鞍馬街道沿い及び深泥池西側の地域の農家風、丸山周辺における現代的デザイン等、地区ごとのデザインに配慮した建築物の誘導を図る。柊野地域の鴨川東岸側の運動施設群周辺の擁壁等については、周辺の自然的環境との調和に配慮する。	
		3-5 「京都指掌圖 文化改正」文化9年(1812) ：「ひらぎの」の記載がみられる。
		3-6 上賀茂神社の石垣と対面のマンション等が並ぶ町並み
		3-7 上賀茂神社の緑と沿道の住宅等の町並み
		3-8 柊野の田畑が残る住宅地

4 賀茂別雷神社（上賀茂神社）周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

3 上賀茂神社南西側（賀茂川兩岸を含む）			参考写真等
ア エリアの歴史等	・大部分が旧西賀茂村にあたる地域。奈良期から平安期の瓦窯跡が多数あり「西賀茂瓦窯跡群」と総称され、平安京遷都にあたって大量の瓦が供給されたという。「西加茂(都名所図会)」の中央に西賀茂村と思われる集落が描かれている。 ・「京都府地誌」による明治10年代の記録によると物産の製茶・菜類は京都へ販売されていた。		
	・葵祭などの舞台となる賀茂街道を含むエリアである。賀茂川右岸の低層住宅は外観意匠に統一感があり、前面の賀茂川河川敷と背景となる西賀茂方面の山々と合わせ、開放的な景観を形成している。 ・エリアの南方面は北山地区まで近代型の低層住宅が続く。田畑であったところが昭和40年代頃に区画整理事業により宅地化が進んだ。今なお京野菜の畑もあり、農村から住宅地と変化していった本地域のまち形成の変遷を感じさせる。賀茂川左岸の宅地開発によって市街化が進んだ町並みとは対照的な景観である。 ・地域には京都市内には残り少ない秀吉時代の「お土居」の遺構が残り、歴史を感じさせる。 文化財等：氷室神社境内及び氷室跡(史跡)		3-9 「西加茂(都名所図会)」  3-10 畑と低層住宅の町並み 
ウ 景観形成方針	風致地区	山ろく型建造物修景地区	3-11 御土居の遺構が残る町並み 
	賀茂川及び高野川の両河川とそれらの沿岸とがのびやかな水と緑の遠望景観を構成しており、これらを保全する。	北山の山ろく部は、多くの歴史的資産と山ろくの自然景観が調和する良好な景観を形成する地域である。戸建て住宅を中心とした良好な住宅地の景観と住環境の維持増進を図る。	
エ 求める建築計画等に配慮事項	風致地区	山ろく型建造物修景地区	3-12 賀茂川右岸より上賀茂神社方面をのぞむ 
	沿岸の建築物においては、河川側での空間の確保、緑の演出、高さや勾配屋根を大切な要素として、のびやかな水と緑の遠望景観の保全を図る。	建築物は、特に世界遺産をはじめとする歴史的資産等の周辺において、勾配屋根を設け、壁面の色彩を自然との調和を旨とする暖色系の自然素材色とするなど和風基調の町並み景観を形成する。	

3-1 「愛宕郡上賀茂村絵図」 歴彩館デジタルアーカイブ (<http://www.archives.kyoto.jp>)
3-2 「近藤豊撮影写真資料」
3-6 「京都指掌圖 文化改正」 国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
3-9 「西加茂(都名所図会)」 国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)